

アルゼンチン北東部の少雨について

1. 概況

アルゼンチン北東部では少雨傾向が続き、干ばつによる農産物への大きな被害が伝えられている。

2. 少雨の状況

アルゼンチン北東部では、2008年12月の月降水量が平年を大きく下回り、各地で異常少雨となった（図1）。アルゼンチン北東部のロサリオでは2007年末から少雨傾向が続いている（図2）。2009年1月に入ってからも、一部で降水があったものの、アルゼンチン北東部の大半の地点で少雨傾向が続いている。

3. 太平洋熱帯域の海面水温との関連

2008年12月現在、中部～東部太平洋赤道域では海面水温が下がり、ラニーニャ現象発生時の特徴が見られた。アルゼンチン北東部は過去のラニーニャ現象時に少雨となる傾向があることから（図3）、今回の異常少雨に太平洋の海面水温の状況が影響していた可能性がある。

※気象庁では、世界の天候に関する情報を週や月ごとにホームページで発表しています（<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/>）。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 03-3212-8341 内線3157]

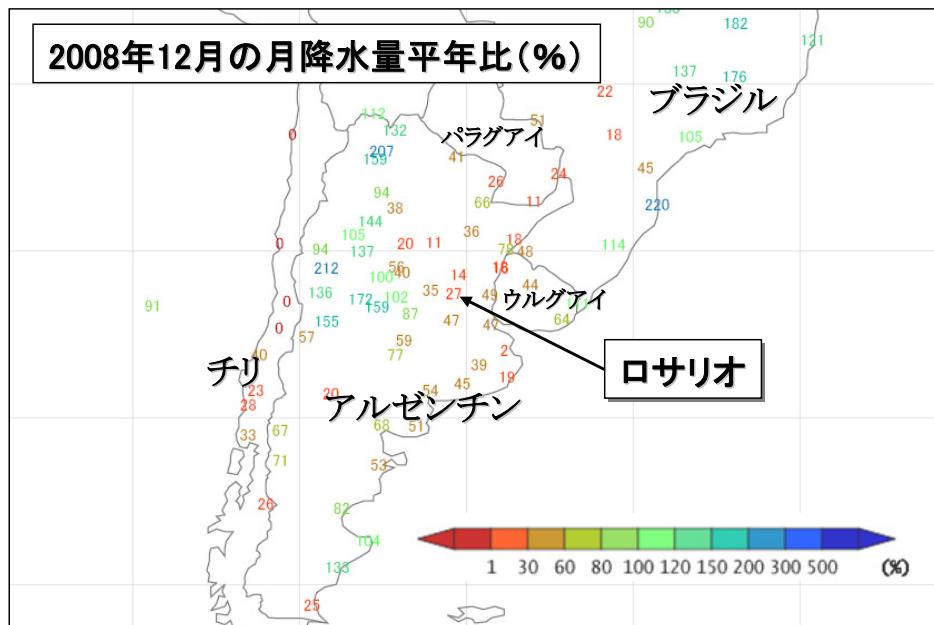


図1 2008年12月の月降水量平年比分布図
各国の気象機関からの月気象通報データに基づく。

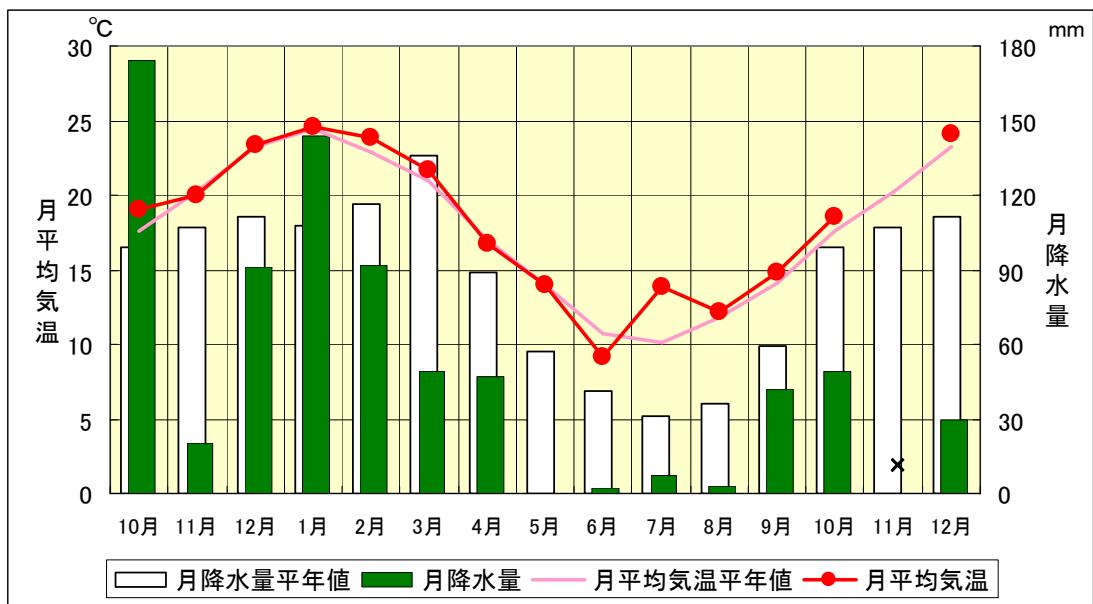


図2 ロサリオ(アルゼンチン)の月平均気温と月降水量の経過図(2007年10月～2008年12月)

赤色の線が月平均気温、桃色の線が平年値を示す(°C)。緑色の棒グラフは月降水量、白色の棒グラフが平年値(mm)。各国からの月気象通報データに基づく。2008年11月は月気象通報の入電がなかった。

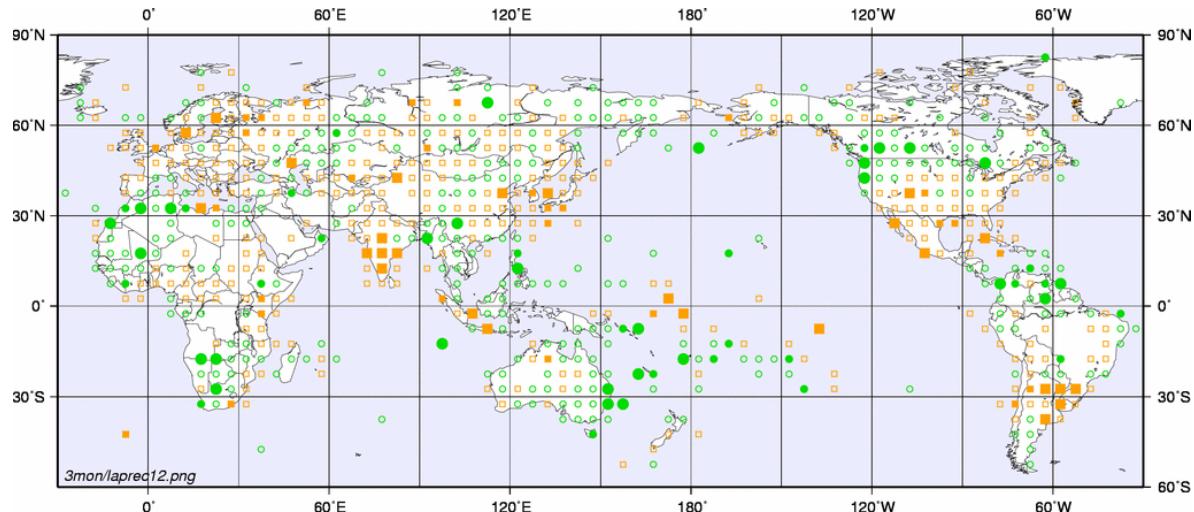


図3 過去のラニーニャ現象時の3か月降水量の特徴(11～1月)

過去のラニーニャ現象発生時とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象ともに発生していない時の3か月降水量を比較して、統計的に差が見られた領域を示す。緑色のマークが多雨傾向、オレンジ色が少雨傾向を示し、マークが大きいほど統計的な差が大きいことを意味する。